

どぼく 散歩 7

～代々木・原宿～



東京2020オリンピック・パラリンピック！開催決定からおよそ7年。東京の風景も大きく変容しました。おもてなしの精神で世界からの多くの来訪者をお迎えし、今の日本の姿、東京の活力を世界に発信する。その志は前回、56年前の東京オリンピックの時も変わらなかったはず。今回はオリンピックレガシーと変貌を遂げた代々木、原宿界隈を訪ねます。

■代々木公園で出会う五輪レガシー

新宿駅から小田急線の各駅停車で2つ目、参宮橋駅から北へ5分ほど下ると、左手に見えてくるのが「国立オリンピック記念青少年総合センター」。今回の五輪レガシー散歩の出発点に相応しい施設名。実はここ、1964年東京オリンピックの選手村の宿泊棟があったところです。当時、世界中のトップアスリートたちがここに滞在していたんですね。

センターから数分の代々木公園西門から園内に足を向けます。ドッグランで愛犬を遊ばせる女性、木陰で新聞を読むおじさん、近くの幼稚園児でしょうか。早咲きの河津桜を通して子どもたちの元気な声が聞こえてきます。この公園も前回オリンピックの選手村でした。遠景に高層ビル、手前には清々しい緑が輝く広大な庭園。マンハッタンのセントラルパークに負けない(NYに行ったことはないけれど)、大都会東京の憩いのスポットです。

公園の北側には「見えない貯水池」があります。豪雨の際、雨水が一拳に下水へ流入することを避けるために整備されました。土手で包囲された樹林地で雨水を受け止め、ゆっくりと地面にしみ込ませ、砂利を通して地下の浸透槽、浸透管を通して下水に排水する仕組み。地下施設だからまさしく目には見えませんが、東京の防災に土木の力がここ代々木公園で役買っているわけです。

中央広場から噴水池を散策しながら東側の原宿門へ。その手前にあるのが「オリンピック記念宿舍」です。アーリーアメリカンに和風のテイスト。屋根はスレート葺きでしょうか。どこか昭和の香が漂う建物です。

■半世紀を超えて現役！ スポーツの殿堂

原宿門から園外へ出ると右手に見えるのが国立代々木競技場。前回の東京オリンピックの競技施設として



国立オリンピック記念青少年総合センター
広大な敷地にスポーツ棟、宿泊棟、国際交流棟などを擁し、健全な青少年の育成を目的とした施設として整備されました。



オリンピック記念宿舍
オランダ選手の宿舎として使われ、開催記念として保存されました。左手奥の樹林は、各国の選手が持ち寄った種子から育ったものだそうです。



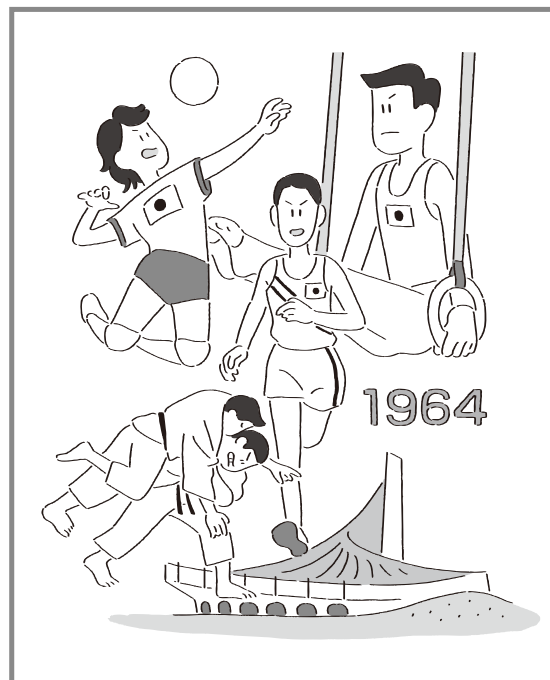
五輪橋

線路をまたぐ「五輪橋」の欄干には前回五輪で日本選手が活躍した柔道、陸上、体操競技のレリーフが施されています。



国立代代木競技場（第一体育館）

前回の東京オリンピックで水泳とバスケットボールが行われたこの競技場は、今回の東京オリンピック・パラリンピックでもハンドボールや車いすラグビーなどの熱戦の舞台となる予定。



建設されました。設計・総合意匠は、かの有名な丹下健三氏。20世紀の名建築と謳われた建物です。着工は1963年2月1日。開催まで18カ月の工期での完成は常識的ではないとされていました。しかし、設計者と清水建設(株)（第一体育館）、(株)大林組（第二体育館）、そして建設に携わったすべての技術者、職人たちの献身的な人力、施工力によって1964年8月31日、開会式まで39日を残して完成しました。世界に例のない吊り橋の技術の高張力を生かした吊り屋根方式の競技場。その威容を前にすると、当時の突貫工事の槌音が聞こえてきそうな気がします。

■東京五輪目前！ 開発が進む原宿界限

競技場から踵を返して五輪橋を渡って、JR原宿駅へ。若者の聖地は今日も大変な人通りです。現在、東京2020オリンピック・パラリンピックを見据えて大規模な駅舎の改修工事が行われています。

明治通りを通過して渋谷方面へ抜ける

キャットストリート。この通りはもともと渋谷川（隠田川）の川筋で、前回の東京オリンピックを機に暗渠化されました。セレクトショップやカフェが1kmほど軒を連ねるお洒落な商店街。その所々にかつての土木構造物の跡を見ることができます。

散歩の終点は宮下公園。原宿駅と渋谷駅の線路に沿って伸びるこの細長い公園は、渋谷川が暗渠化されたところに人工地盤として嵩上げ、地上部は駐車場として整備されました。当時は東京初の空中公園として人



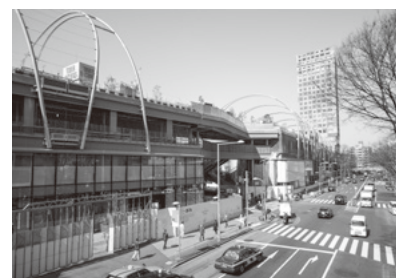
原宿駅

明治神宮側に出入口を新設。あの可愛らしい原宿のシンボルともいえる駅舎は五輪後に解体、防火基準に適合した資材を用いて再現される予定です。



キャットストリート

かつての橋の親柱などが残る。通りの中央部の交差点は旧隠田川の橋の跡だそう。



宮下公園

新名称は「MIYASHITA PARK」。屋上公園には多目的コートやスケボーパークも。

気を集めたいと言います。その公園が半世紀の時を経て大変身を遂げようとしています。全長約330m、3階建ての商業施設に生まれ変わり、公園はその屋上に。緑に囲まれた新たな空中公園は今年の6月オープン予定です。

これから始まるスポーツの一大イベントを機に、半世紀前を想像しながら、更にこれからの50年、100年先に思いを馳せる、そんなタイムマシンのような散歩道でした。